

レースの流れと舞台裏

ばんえい競馬開催日には、一日約十一のレースが三十から四十分間隔で行われます。レースの手順は厳格に決められており、流れるように進行します。

馬場入場までの騎手と馬の動き

騎手はレース前日夜から当日朝まで、体調管理と情報遮断のため調整ルームで過ごします。一方、出走馬の準備が始まるのは発走二時間前から。きゅう務員は担当馬に念入りにブラシをかけ、たてがみを飾ります。発走五十分前までには馬体重を測定して装鞍所に入り、実馬照合（馬の特徴をデータと照合）や健康検査、装具の点検を受けます。発走三十分前までにはパドックに集合。騎手は鞍もあぶみなしに颯爽と馬に騎乗して周回し、各馬は番号順にパドックを出て馬場に入場します。

円滑なレースを支える舞台裏の流れ作業

馬はスターティングゲート後方にある待機馬房へ、騎手は騎手控

え室でレース開始まで待機します。この間に舞台裏では、馬場入場を合図に専任スタッフが走路に入り、前のレースで荒れた馬場を手際よく整備。スタート担当者は各馬のそりに重量物を積み込んで配列します。騎手が手綱、胴引き、かじ棒を結束し、馬とそりをつないだらゲートイン。ばんえい競馬はそのりの後端が基準なので、スタート担当者がそのりの後ろをそろえます。その間にスターターが騎手の帽色と番号、係員がそり重量などをチェック、準備が整ったらスタート台に立って旗を振り、磁石式ゲートのスイッチを切ってレースをスタートさせます。

ゴール後は、ゴール担当者が速やかにそりを外し、トロツコでスタート地点に戻します。着順判定が出たら、一・二着の馬は禁止薬物に関する検査のため検体所へ。こうした一連の作業が、レース毎に滞ることなく繰り返されています。

